

(NEWSは全国人権連本部ブログに掲載してあります)

神権連大会 (3月27日) で義援金訴え 31476円集まる

「東日本大震災による被災者の方々に出来る限りの支援をするとともに、地域社会において住民を災害から守り、安全・安心して暮らせるように住民の権利を守る憲章を確立し、暮らしと人権を守るために奮闘する」(大会宣言)

群馬の状況 『地域と人権』(群馬版)

桐生市広沢町では、国道50号線沿いは一見異常なく、裏通りや旧道に画した古い家の瓦が崩れました。とくに釘留めしていない、ひっかけ瓦の屋根は全部落ちていました。旧高崎市北部の住宅団地周辺では、棟瓦の崩れた家が20~30件見られます。2週間ほどで半数は修理されました。

高崎市倉渕町ではほうれん草を5ヘクタール作っているが、出荷できず全滅。同市南部のトマトの有力産地では、市場で1ケース1600円の品に500円の値しか付かず、大打撃です。まさに風評被害です。

高崎市内の六郷長寿センターには、いわき市、南相馬市、須賀川市からの33名の方がおられます。最初は座布団を並べて寝ていたが、近隣の人がふとんを差し入れてくれました。驚いたことに、市は食事代を避難者から取っていたそうで、それは3月31日から無料になりました。地域の長寿会の人たちが支援活動をおこなっています。

南相馬市からきた宝槻(ほうづき)さんは畜産家で、急の避難のため、約50頭(内20頭がさく乳牛)を置き去りにせざるを得なかったそうです。着の身着のまま、手持ちの現金が底をついたのも辛い。現在こちらの酪農家での仕事探しをしています。

“東日本大震災有事”がファッショ的リーダーを生み出す危険、統一地方選挙の結果をみて、(私たちは東日本大震災にいかに向き合うか、その5) 広原盛明のつれづれ日記

(<http://d.hatena.ne.jp/hiroharablog/20110411/1302510667>)

今回の統一地方選挙とくに前半戦の首長選挙は、次の国会政局の前兆を示唆するうえで見逃すことのできない政治イベントだったといえる。石原・橋下氏のようなファッショ的首長が有権者の圧倒的支持で選ばれる世論状況のもとでは、国政においても同様の動きが必ず起こると見なければならぬ。それも現在のような菅政権のもとでの「生ぬるい連立劇」ではなく、「石原型首長」を頂く本格的ファッショ政権が成立する可能性についてである。

死者・行方不明者2万8088人 15日 19時現在